

## いじめに関する特集

(有) ふぁいん  
平成 19 年 10 月 31 日

### はじめに

当社では、合格や成績アップを主眼にしていますが、お子様の健やかな成長を考え教務以外でも気になる点にはアドバイスを差し上げてきました。

今回、それらをまとめました。ご一読くださると幸甚です。

いじめはいつ、どこで起こるか分からないものです。起こってから悩む前に、ある程度の知識をつけていただければと思います。

### 1. 子供の言動に気づく【1枚のプリントからいじめを見抜く】

A 子さんは比較のおとなしいタイプでした。成績も運動面でも普通。しかし、はしゃぐ時ははしゃぎ、おもしろい発想を時々して、目立たないけれど友達に恵まれたお子さんでした。また、書道に親しんできたせいで筆圧があり、安定した良い字を書いていました。

小 4 の秋、運動会が終わってしばらくたったころ、彼女の字が荒れ始めました。宿題も忘れはしないけれどもなんとなくおかしい。間違いが多くなり、立式の仕方や考え方に乱雑な印象を受けました。勿論字も汚いのです。

お母様は、学校のテストも含め間違いが多くなったということで彼女を叱ったようです。

しかし、私はその奥にあるものを感じていました。

それは、いじめ。

彼女の口からは一言も聞かれませんでした。友達から聞きだしてみると、事例からあきらかにいじめであるという確認が取れました。

行事が多い学期は、忙しさや疲れから子供の心も荒れることがあります。そんなエアポケットのような時期におこったいじめでした。

ある教科の一定の単元だけが急激に点数低下したならば、これは学習の理解が出来ていないということでしょう。しかし、教科をまたいで、また、同じ教科でも複数の単元で急激な学力低下がみられたら、これは学習理解が原因ではありません。複数の原因を探ってみてください。子供は案外「恥の意識」が強く、口には出さずにこらえていることが多いようです。

## 2.うちの子 いじめられているのかしら？

「いじめ」の相談を多く受けるときがあります。大体マスコミで騒がれるか、また、何か大きな事件が起きた時です。

私達も普段の子供達の様子からいろいろなことを把握していますので、親の感じ方とのギャップを感じることもあります。

ご相談の際に多くの方は、開口一番

「うちの子 いじめられているんじゃないかと思うのですが・・・」とおっしゃいます。しかし、いじている方と、いじめられている側の数は、絶対的に前者が多い。確率が高いのです。

いじめや学級崩壊を起こしやすい環境は確かに存在します。起こしやすい講師も存在します。私の経験でも、受け持つクラスを全て崩壊状態にした講師もいました。しかし、同じ生徒に対して講師が同じでも、年度によって崩壊していく場合もある。要するに、予想がつくようでつかないのです。いじめも然りです。

いじめの場合は標的が変わるので、昨日までいじめられていた生徒が突然立場が逆転することもあり、加害者なのか被害者なのかが分かりにくい。ですから、両方を想定して話を聞くことが大切だと思います。

## 3.いじめ対策 親への癒しが解決になることもある

いじめでケアをしていかななくてはならないのは、被害者でしょう。しかし、一番ケアを必要としているのは加害者です。理由があるから行動に出る。マイナスの行動に出てしまった原因は、かなり奥深いところにあたりします。例えば、コンプレックスであったり、親との関係、または兄弟との関係であったり、今までの生育歴であったりします。

どうしても親の責任にしてしまいがちですが、親も苦しみ悩んでいることが多いようです。しかし、解決策がない。カウンセラーにかかる人はごく僅かでしょう。

また、カウンセリングに行って却って傷ついてしまったという経験もよく聞きます。流派により、過去をさらけ出してから(つまり、原因を特定してから)癒していくものもあります。その場合は一度は辛い経験を思い出すことになるので、傷が大きくなったと感じる方もいるようです。

B子さんはかなりきつい印象をうけるお子さんでした。物言いもはっきりしていて、先生からは受けが良くないという話でした。自分の感情をストレートに出しすぎてしまい、いじ

めなどのトラブルにつながります。もっと世渡りを上手にすればいいのに・・・と思ったものです。

お母様は B 子さんの一挙手一足に気を遣うように見受けられました。子供に振り回されている気弱なお母様という感じです。

しかし、お母様が気弱になると B 子さんが強くなるような逆の順番を感じましたので、原因はお母様との関係ではと推測し、なるべくお母様にお声掛けをするようにしました。

具体的には、感謝の言葉やねぎらいの言葉です。

お母様と何回かお話していると、抱えている悩みが分かりました。B 子さんは、いわゆる「我侷な子」ではなく、「感受性が強すぎるお子さん」だったのです。

お母様の大変な状態を推測して、自分がマイナスのアプローチを繰り返してしまう。そんなパターンでした。

本人だけでなく、その周囲を勇気付けることで改善がみられた事例です。

#### 4. 大人のいじめ 子供への影響を考えて

多くの子供達の、そして、多くのお母様方の心配事である「いじめ」。私が係わって解決してきたものでも何種類かあります。そして、その伏線には大人の世界からの影響もありました。

学校図書版国語小学 6 年に高橋正亮氏作「ロシアパン」という物語があります。ロシア革命を逃れて日本に来たロシア人と家主の家族とのふれあいを通し、戦時下の人々の心の動きを描いたものです。子供達の世界への大人の影響がよく表れています。

このように「いじめ」は子供達だけのものではありません。大人になってから体験することもあります。1 対 1 なら喧嘩ですが、いじめは集団で相手を潰そうとする。これは、大人も子供も同じです。1 対 1 で勝負できる人なら集団でかからないでしょう。

大人になってからいじめをする人は、ある傾向があるように感じます。

まず、思い込みの激しさ。思い込みに根拠がなく、これには対処のしようがありません。

次に、比較論者であること。つまり、軸という直線ではなく、シェイプ：形としての自分が無いこと。そういう人は他人のことはものすごく知りたがりです。そして、自分を軸にして比較します。自分が飛躍しようと思ったら比較する段階でもう負けです。情報を得ることと比較とは違います。

最後に嫉妬ですね。これは醜さでしかない。嫉妬する暇があれば、自己投資して自分に益が回るようにすれば良いと思います。

さて、「一番になりたい」と言い切る人からは、いじめを感じることはありません。何故な

ら、一番になりたかったら突出すればいい。一番になる人は、二番手と比較して頭一つだけ出して一番になるような手を使わない。だから一番なんです。

情報を握ることは大切ですが、他人が何をやっているかや噂は関係ない。自分の世界は自分で作ればいい。それが出来ない人がコンプレックスとしていじめをしていくと考えています。

大人の場合は法律に訴えることもできます。ですから、そんなに自分を追い込むことはないでしょう。ただし、その大人の影響を受ける身近な子供達は、「いじめ」という行為を知らないうちに刷り込まれてしまう。そして、解決策を知らず苦しみます。

大人のいじめは当事者だけでなく、そんな危険をはらんでいます。

「大人にもいじめはあるから、子供にあっても仕方がない」ではなく、大人のいじめは非常に影響力があるものだということ、特に親や教育関係者などが認識していく必要があるでしょう。

## 5. 何故、塾がいじめ対策をするのか

塾がいじめ対策を記事にすることに驚く方もいるでしょう。

何故、私達がいじめを記事にするのかを書いておきます。

荒れた学区では学級崩壊やいじめが恒常的に起こります。そこにいるというだけで、大きな傷を負うこともあるのです。

問題が起こった時大人は慌てます。

しかし、対処がすぐできるわけではありません。いじめは風邪と違って何回も経験するものではない。過去の経験がないのです。ましてや特効薬などありません。ですから、多くの子供達は、初めて経験するいじめで非常に悩みます。

反対に我々は多くの事例を見えています。相談を受けることも多いのです。

子供達の学力の伸びは、彼らの置かれた状態で著しく変わります。ですから、学力を上げるためには、彼らの状態を把握していく必要があります。「モチベーションを上げる」といいますが、ただ

「頑張れ」と言われただけでは、決して上がらないでしょう。モチベーションを上げるためにはどうしたらいいのか。本人へのアプローチだけでなく、親へのアプローチも考えます。あがらない理由は何なのかも考えていきます。

これは、素行でも同様です。

例えば、嘘をつく子供がいるとします。

「嘘をつくことはいけないことだ」と教えるだけでは嘘は直りません。何故なのかを諭すと共に、状態を把握して環境や心理状態を改善していくことが大切になるのです。

そして、その延長線上で、いじめへの対処なのです。

私は昨年よりアドラー心理学を学んでいます。

特に、親と子のコミュニケーションに特化しました。その上で保護者に接しています。

夏期講習のアンケートを集計していると、

「親の気持ちが楽になった」というご意見が多いのに気づきました。

塾の存在意義は、成績を上げる機関だけでなく「親の安心を作り出す機関」でもあると私は考えています。

そして、「健全な子供の成長を育む機関」に成長していきたいと考えています。

## 6.いじめ 同じメンバーでも環境が影響する

もう何年も前になりますが、深刻ないじめの相談を受けたことがあります。

その時は、保護者様に教育相談をお勧めし、尚且つ学校側との折衝もアドバイスさせていただきました。

被害者も加害者グループも塾のメンバーでした。

ところが不思議なことに、塾ではいじめが無く、被害者の生徒も嬉々として来ます。

しかし、学校では教室に入れられない状態で、会議室登校となっていました。これは、保健室登校をさせると保健室が機能しなくなるので、教室に入れられない生徒はまとめて会議室で自習させることです。

彼らがお互いに本当にイヤならば、塾へは来ないはず。しかし、来るということは、根本は仲良くしていきたいことだと受け取りました。

では、何故学校ではいじめが起こってしまうのか。

まず、他の生徒との力関係。メンバーが同じでも、ギャラリーにより環境が変化するだろうということ。

次に、責任者の考え方の差。つまり、その行為を許すか許さないかということです。具体的には、感情論ではなく、何故許されない行為なのかを相手が理解するまで話していきました。

## 7. いじめ 人生のアルバムをなくしてもいいの？

まず、自分(講師)自身の考えを述べること。世間一般がどうであれ、規約がなんであれ、自分自身の考えを「一人称で」話すこと。ただし、これにはお互いの、この場合は、保護者を含めた生徒達と講師との信頼関係がきちんと築かれているという前提があります。

次に、何故なのかを具体的に話していくこと。

いじめは「無知」や「想像力の欠落」から起こることもあります。想像力のない人に「イメージを考えなさい」と言っても無理な話です。ですから、わかるように話していく。決して抽象的に話さないことです。

それから、感情を交えない。怒鳴りつけて泣きながら謝らせたとしても、理解していなければまた繰り返します。

よく謝罪文を書かせておしまいというのを見ますが、本当に彼らが理解して書いたのかどうか疑問です。謝罪文という手段を重視しただけならば、いじめという行為は繰り返されるでしょう。

さて、火事に遭った人が一番残念に思うのは、家族のアルバムを無くすことだそうです。他の物は買っても思い出は買い戻せない。

それと同じで、いじめに遭った生徒は今までの思い出を捨てることになります。過去の一時点から今までの履歴を消すことと等しい。英語の考え方では、現在完了継続 for ~ の考え方。ある期間が抜けることになります。

これはいじめをしている生徒にとっても同じです。ただ、気がつかないで喪失感を感じないだけなのです。そして、そのアルバムを、進行形の状態で滅茶苦茶にしているのも、当時の彼らだったのです。

これは、彼らがその時まで聞いたことのない考え方だったといえます。

話をするのに前提となる生徒との信頼関係。これをどのようにして築いていくのかは、コミュニケーションの取り方に尽きるでしょう。当社はコミュニケーションが「しつこい」(笑)皆様驚かれますが、大切なお子様をお預かりしているのですから、当然だと思います。

いじめも一種のコミュニケーション障害です。バーバルコミュニケーションがきちんと取れていれば、かなり減ると考えています。

## 8. いじめられやすい子へのフォロー

毎回標的になってしまいうじめられやすい子供がいます。

周りもそれに慣れてしまうのか、いじめが潜行する原因になります。

気弱そうに見える以外に、身なり、マイナスのアプローチを繰り返す子供、それから、その場の雰囲気を読めない子供などです。後者はいわゆる「KY：空気よめ」と言われます。

身なり、これは注意するのに勇気が要るでしょう。下手をすると、その子の親とトラブルになるかもしれません。しかし、それがいじめの原因になっているならば、忠告してあげる必要があると思います。原因が家庭の事情からなのか、単にだらしが無いだけかは分かりません。

私事で恐縮ですが、子供達の幼稚園時代、服は大体手造りでした。クライムキさんの簡単洋裁が流行っており、簡単にできたのです。子供達にはアトピーがありましたので服地は木綿、糸も木綿になります。ところが、この木綿糸はポリエステル糸と比べると切れやすいのですね。ある日二人とも股下がぱっくりと割れていたそうです。通園の時にはスモックを着ているから分かりません。幼稚園の中での発見で、先生にご注意いただきました。その他、上靴のかかとを踏んでスリッパにしてしまうなど、ずいぶん注意を受けたものです。幼稚園から連絡がなければこちらも気がつかないでしょう。

案外、親が気づいていないことが多いなと思った出来事でした。

次に、マイナスのアプローチを繰り返す子供。これは、兄弟順位なども絡んできます。行為を注意するより、何故このようなアプローチを繰り返すのかを考えた方がいいようです。負のアプローチに注目を与えてしまうと、子供は負のアプローチを繰り返すようになりま。私は負のアプローチを繰り返す場合は相手にしません。同時に背後にある問題を推測します。また、正のアプローチの仕方が分からないならば教えます。そして、正のアプローチができたなら誉めます。つまりその時点で注目します。

それから、その場の状況を読めない子供は、対人関係の学習不足が多いようです。場数を踏む、または、推測する能力をつけていけば、回避していきます。これも、教えてあげる必要があります。

人間誰しも「いじめられたい」と考えて行動はしないでしょう。知らないで行為を受けている場合は、回避する手段を教える必要があるようです。

## 9.いじめ解決 我が家の場合

わが子が小学校低学年の時の話です。

いじめが一ヶ月以上続いていたらしいのですが、私は文具の減りが早い以外は全く気づきませんでした。もともと芯が強すぎるほど強い子なので、人前では絶対に弱みを見せない。

他の保護者から教えてもらって初めてわかりました。担任の先生も放っておいたのではなく、何とかご自身で解決されたいとお考えだったようです。不思議なことに相手がわからないのです。やり口から、高学年も関与しているように感じられました。

担任の先生のお言葉通り、解決を待ちましたが、一週間たってもどうも解決した様子がない。相変わらず鉛筆は無くなっています。

この場合、鉛筆を取っている生徒=いじめっ子です。つまり、鉛筆の動きを追っていけば首謀者にたどりつきます。

そこで、鉛筆全部と消しゴムに、お名前ペンで

「とったら おこるぞ ○○(子供の名前)の母」と書きました。消しゴムは表面積が広いので、書き手がありましたね。

次の日から、いじめはピタッと止まりました。まだ低学年で幼いので、子供の後ろ盾には親がいることを経験として分かっていなかったのでしょうか。担任の先生からは即、お手紙をいただきました。親の本気を感じてくださったようです。

ただし、子供には

「これは、低学年であるからできること、尚且つ一回だけの奇襲である」とは聞かせました。親を頼ったり、虎の威を借りる状態になったら困るからです。いじめにあった場合も、ある程度は自分で解決する方法を見つけていかななくてはならない。我慢しているだけでは相手側を増長させるだけです。

その以前より塾を開業していましたが、いじめ問題にも取り組んできていましたが、やはり自分の子供がとなると感じ方が違いました。

まず、トラブルに巻き込まれることへのためらいと不安感。子供のためとはいえ、周囲と争うのは気持ちの良いものではありません。うそであってくれればと思いました。それと、先生と自分との問題への体感温度の差ですね。つまり、当事者であるかどうかということです。

余談ですが、その後しばらくの間、当塾は

「ヤクザな塾長がいる塾」と、ご近所の噂になったそうです。

## 10. ネット上でのいじめ

半年ほど前、プロフでのいじめがあり、生徒より相談を受けました。

パソコン教室をやっているので、ネチケットのご相談を多く受けます。また、対処ノウハウも持っていますし、その方面に詳しい弁護士もよく存じ上げており、時々相談します。

生徒から相談を受けたプロフの件は、学校側では対処できなかったようです。過去に事例がなかったか、あっても方法がわからなかったようです。

私は即刻弁護士の方へ資料を持っていくように言いました。ネット上のことは瞬時での対応が鍵です。

いじめは異質なものを排除する他、比較差別も原因になると考えています。狭い世界、または、横並びになる社会に多いのは、何かで差をつけていかないと残れないからでしょう。教育産業はその典型で、個人ではなかなか伸ばすことのできない業界です。TKCの九月での業界黒字企業率では、学習塾は38.9パーセントでした。低いですね。収益差以外のどこで差別化するか、比較しているうちにお互いの粗探しになってしまうのではと思います。

それでは、ネット上でのいじめをまとめてみます。

1.今、一番多いのは、写真入りでプライバシーを載せるもの、それに悪口が書いてあるものです。生徒から相談を受けたのもこのタイプ。

2.いきなり中傷コメントを入れるもの。根拠も何もない嫌がらせに近いものです。自分がいれるならまだしも、他人を使ってという卑怯なものもあります。

3.脅迫。

謝罪などの要求。「私の言った通りにしないと、こういうことをするよ。」あるいは、「こういう嫌がらせコメントを入れるよ。」など。

4.炎上

5.他人への中傷記事を書くこと。

基本的にブログは管理人が管理するものですから、他人のコメント類を載せようが削除しようが勝手なわけですから。いじめなどのトラブルにならないように運営すればいい。

また、会社HPにリンクが張ってあるなどの経済活動に関係あるブログや、学校関係のブログに支障のあるコメントを入れた場合は、相手に賠償請求をしてもいいと考えています。

## 11.いじめが起きた時どうするか 教師編

藤原正彦氏著の「国家の品格」の中に

「いじめを本当に減らしたいなら、『大勢で一人をやっつけることは文句なしに卑怯である』ということ、叩き込まないといけない。」というくだりがあります。

これが、この問題への対処策、および防止策を端的に表していると思います。

この仕事をしていると、こういう問題は避けて通れない。そして、初期判断を誤ると取り

返しのつかないことになります。ですから、「芽」の状態です。必ず潰します。並行して、普段から気を配り、一人ひとりの状態とそのバックグラウンドを把握していく必要があります。気になることがあったら即、保護者に確かめます。うちの塾で講師からの伝達や TDS が多いのはそこまで考えてのことです。

ただし、原因はどうあれ、いけないものはいけないとはっきりしておきます。それをしてから、加害者被害者の側の原因を考えてフォローしていきます。

気をつけることは、一方的に謝罪させるだけならば遺恨を残しますし、それが第二のいじめにつながる場合があるということです。凜とした態度を示しつつ、原因を探り、アフターフォローまできちんとする。ベースには指導者のきちんとした考えを置くということでしょうか。

指導者の考え方や方向がいじめの発生率に関係します。

これは会社や組織でも同じだと思います。リーダーや上司が代わると途端に改善される、またはその逆がよく見られます。リーダー自身の器の大きさ、素質、社会性などの他、一本芯の通った考え方をしているかどうかはファクターとなります。たとえ、経験が多かろうが、何代目だろうが、背骨がない指導者の下ではトラブルは多くなり、優秀な人材ほど早く逃げ出します。

経験、性別、家柄、年齢関係なく、優れた指導者は、対症療法ではなく骨になる考え方を持っています。

## 12. いじめが起きたときどうするか 保護者編

昨年アドラーのベーシック講座を受けた時、印象的な出来事がありました。受講者には教育関係者が多かったのですが、子供がトラブルを抱えた時の受け答えで「子供の心情を考えるよりも対処法を考えていた」のでした。

ロールプレイング後、どれが子供にとって良いだろうかと皆で検証した時、それは教育関係者の対処ではなく、子供役の心を受け入れていた方となりました。

彼女は聞くだけでなく、受け入れるための態度と応答をし、子供と感情を共有していました。

子供がいじめを受けた時、大人にとってもショックです。ですから、つい

「誰にやられたの？」や

「なんで先生に言わないの？」などの言葉を発してしまいます。しかし、それは本当に子供が望む言葉ではないようです。

ロールプレイで彼女が最初に口にした言葉は

「そう・・・辛かったのね」でした。

考えてみれば、いじめられて孤立するということは、感情共有する仲間を失ったということになります。そして、いじめられている子供はその状態十分に耐えているわけです。ですから、そこで原因を追究しても始まらない。

ましてや、子供なりに対処法を考えている場合には、彼らの自尊心を打ち砕くことになります。私はなんて無知だったのだろうと思いました。

それからは、まず彼らの心を受け入れるようにしています。それからの対処です。

さて、子供にとっても保護者にとっても、いじめは何回も経験するものではありません。ですからアタフタしてしまう。仕方の無いことです。悔しい気持ち、相手に対する怒りや、トラブル処理への恐れもあります。でも、それは恥ずかしいことではないと思います。初めてのこと、しかもトラブルには皆慌てふためくものです。

しかし、対処だけに目を当てないで下さい。子供のバックグラウンドとして、子供がいつでも安心して帰って来られるような心でいてほしいと思います。いじめられた子供が求めているのは、「辛い」という感情の共有と安心感なのです。

学校での発生なら、とりあえず学校を休ませてもいいと考えます。心の緊急避難ということです。

「引きこもりやニートになったらどうしよう」と思うかもしれませんが、しかし、大切な子供を失うよりはと考えています。義務教育の「義務」は「どんな時でも絶対に行かなくてはならない義務」ということではありません。あくまでも、「子供を保護するための、子供を守るための義務」です。

学校の先生との話し合いは、慎重にします。苦情を言うというよりも、どうしたらいじめがなくなるのかを真剣に一緒に考えてもらうようにします。

まず、担任、それで解決しなければ学年主任の先生、教頭先生というように順に責任のある立場にいくのが通常のようなようです。いきなり校長に怒鳴り込むというのでも聞きますが、あまりいい結果は生まないようです。

どうしてもダメなら転校を考えてみます。今までも転校をお勧めしたことがありますが、今在籍している学校(つまり、いじめのあった学校)に相談するより教育委員会などに打診したほうが良かったようです。

負のトラウマを消すことも考え、カウンセリング等を受けられることをお勧めします。ここでの適切な対処が、今度は子供をいじめっ子にしない手立てになります。人は、学習し

たことを実践する傾向があります。虐待を受けて育った子供が今度は加害者になることが多いのはそのためです。

いじめはパターン化して対応できるものではありませんが、必ず道は開けます。決してあきらめないで下さい。

### 13.いじめが起きた時どうするか 子供編

辛かったね。まず、ゆっくり休もう。

今は頑張らなくてもいい。身体も心も休もう。色々なことはそれから考えればいい。

気持ちも身体も落ち着いてから次のことを考えよう。

十分に休めたら、そして、その時に戻れるようならば戻ればいい。もし、まだそういう環境が整っていないならば、見送ってもいい。とにかく自分を大切にしよう。

気持ちが十分に落ち着いたら、なんでもいいから「絶対であるもの」、「他人にはできないもの」を作ろう。

君が君である証(あかし)にもなる。それが自信につながる。

いじめで一番深刻なのは、自分に自信を失くすこと。自分の存在を否定することだ。自分を否定したら、自分を愛せなくなる。自分を愛せない人は、他人も愛せなくなる。

大人の世界でもいじめはある。もちろん、仕掛けるのは、大人になっても一人では何も出来ないどうしようもないクズだ。そういう時には、絶対真似できないものを示してやる。

そして、その後一切係わりを持たない。係われれば、自分が穢れるからだ。復讐なんか考えなくてもいい。自分より格下の人間に与えるものは、復讐ではない。同情であり、哀れみだ。自分が成長すればいい。今は成長するための糧と考えよう。

落ち着いたら、いじめなんか「食べて」しまおう。そして、それをも栄養源にして大きくなろう。

大きなことを成し遂げる人は、苦しさも悲しさも昇華させる。負のエネルギーをプラスに転じることが出来る。全てがエネルギーになる。だから強い。

それから、身近な世界だけを見ないことだ。大きい人たちに染まろう。大きな人たちの著書を読もう。

お勧めの本は

ネクシィーズ近藤太香巳社長著 夢みることから始めよう

お勧めのページは P25、26、81、117

20代の人向けに書かれた本だが、わかり易いし、何よりも元気になれる。

#### 14.いじめをしているあなたへ

養老先生の「死の壁」で、なぜ人を殺してはいけないかがあります。

養老先生のお答えは「元に戻らないから」

元に戻らないものは、生き物だけではありません。目に見えないもの、環境や、もちろん心も、一度壊してしまったら元にはもどらない、または、戻りにくいのです。

いじめは心の崩壊(ほうかい)を生みます。そして、それは他への影響という点で、死よりも辛いものとなりうるのです。

いじめは広がります。そして、それは簡単に世代を超えてしまいます。

人は、一度学習したこと、体得したことを繰り返していくという習性があります。たとえば、「子供達が人をつねる」という行為を私達が見た場合、まず大人からの行為を疑います。

「つねること」は、「たたく」や「蹴る」と違い、人間が本能的に持っている行動ではありません。他人がやっているのを見る、または、あなたがやられてきて、初めてあなたは他人をつねります。

そのように、あなたが今しているいじめは他人に広がり、親が子供をつねり、そして子供がその子供をつねるように、時を経てもつながっていきます。

今、それだけのことをしているということをまず理解してください。

今、あなたは幸せなのでしょうか。あなたが加害者のまま成長し続ける姿を想像してみてください。このままなら、あなたは辛いでしょう。

塾生がいじめの対象となった場合、私達は相談に乗ります。いじめているあなた達は私達のことを知らないでしょう。しかし、あなたがいじめている子供達の後ろには親などの親族がおり、そして私達のように係わってくる者が多くいることを知ってください。

あなたの行動が、多くの者を悲しませ、憤らせていることを想像してください。

あなたは「つねる」ことを誰かから学んだのかもしれませんが。行動には必ず原因があります。ですから、あなたの心をよく観察してみてください。考えてみてください。

もし、思い当たる原因があるならば、それを取り除かなくてはなりません。たとえそれが、ただのイライラだとしても、あなたにとっては不快なことです。

すぐには無くならないでしょう。でも、それを取り除こうという意志がある限り、いい方向に行くはずです。

あなた自分でも方法がわからない場合は、他の人に聞いてみましょう。適任者を探すのはむずかしいかもしれませんが。あなた自身が疑い深くなっている時はなおさらです。

そんな場合は、立ち止まってみてください。

とにかく、今の状況を断ち切ること。

あなた自身が幸せになりたいのなら、それから始めてみましょう。

## 15. いじめの特集に寄せて

先週、講師と、

「私達はこの場所で店を開けなかったら、こんなに真剣にいじめ問題に取り組まなかったかもしれないね」と、話をしました。

この仕事を始めて15年が経ちます。最初に受け持った生徒にいじめがありました。

学校でも問題視されている子どもで、説教しても直らないばかりでなく、「うちの子だけがしているのではない。」と、親から怒鳴り込まれ、結局は退塾していただきました。その生徒はどこでもトラブルを起こしており、周囲は係わりあいにならず、孤立していったようです。

いじめについては仕事柄よく相談を受けますし、自分達のクラスで起こることもあります。また、ここは静岡県下一荒れた学区だった時があり、その時期は少しでもトラブルのある子は転落していきました。学校での学級崩壊もたびたびあり、当時の先生方の疲れきった表情は忘れられません。学校の先生の精神疾患発生率はとても高いのです。休職される方が後を絶ちませんでした。

小学校時代に二年間学級崩壊を経験した学年を一斉授業で受け持ったことがあります。一人ひとりはとても可愛い。しかし、集団になると大人に対しては全く反応が無いか反抗的、子供達の間ではけん制しあう状態で、この子達は将来どうなるのか悩んだものです。彼らのことは心理学の講座を受けた要因となりました。

子供時代に負の環境に接してしまうと、他人を許容すること受け入れることが難しくなります。その結果、人を信じられなくなってしまうようです。彼らは学級崩壊を通して大人の考え方や行動を観察してしまいました。そうすると次は自分達で大人に仕掛け、大人の反応を楽しむようになります。いじめることに慣れてしまった子供も同様、一筋縄ではいかなくなるようです。

また、こういうこともありました。三年前、当塾の生徒がいじめの対象となりました。トラウマがひどく心療内科を紹介し、転校をお勧めしましたが、転校しても傷はふさがらず不登校になっています。そして、同じ加害者がまた、他のターゲットを探して繰り返しています。今回もいじめの対象が当塾の生徒ですので、来週から話を聞いてアドバイスを与える予定です。

つまり、その加害者のお子さんは、諭されても叱られてもまだいじめを続けていることに

なります。何がそうさせているのか、根本解決をしない限りそれは続くでしょう。いじめは加害者も被害者も不幸にします。

そして、マスコミの煽りの影で深刻な問題も浮き上がってきました。今、首都圏中学受験熱が過熱し、それによる小学校内での学級崩壊やいじめが急増しています。それらを経験した子供達が、この先何を感じて生きていくのか不安です。それに対しては有効な手立てを立てられないでいる、つまりプロがないのが現状です。

もし、中立な立場で解決に向けて後押しできる機関があれば、子供も保護者ももっと楽になるでしょう。

例えば事件が起きた場合、我々は行動のみに着目してしまいます。

こんな事例があります。

ある日、「イグアナが暴れているのでどうしたらいいか」という相談を受けました。親戚や知人に獣医師が多いので、相談されたのでしょうか。輸送のためダンボールに入れようとしていてのことだそうです。友人の獣医師に尋ねると

「それは、怖いから暴れているだけだよ。イグアナが落ち着いたら下から救うように持ち上げる。ただし、イグアナの歯は鋭いから噛まれないように気をつける。もし噛まれても怖いから噛みつくのであって、決して大声を出したりしない。イグアナが怯えて、却って暴れるからね。」と、言われました。

事象の影には必ず原因がある。その原因を取り除く、または、軽減することで解決できることも多いのです。その原因を探る、そのときの対処法や方向を提示するのも私達の役目ではないかと考えます。

今、当社に集ってきてくれている子供達、保護者様に対しては微少でもお役に立ちたいと去年より心理学を学んでいます。多忙なので間を置きながらですが、決して実践無き机上の空論にはいけないと肝に銘じています。

「見ていても何もできない、しない」そんな状態を少しでも打破していけたらと考えています。